

JICA 関係者限定資料

パプア・ニューギニア

任国情報

1997年

JICA LIBRARY



J 1141388 [7]

国際協力事業団

国際協力総合研修所

JICA

C206

20

11C

BRARY

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等、JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家等、JICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の意見を代表するものではないことを付記いたします。

平成10年3月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1141388 [7]

目 次

I	概 況	i
II	生活事情	1
1.	食生活	1
2.	衣 料	5
3.	住 宅	7
4.	医 療	10
5.	教 育	16
6.	家庭の使用人	18
7.	交通事情	19
8.	通 信	21
9.	マスコミ	23
10.	教養、娯楽、趣味、スポーツ	25
11.	その他のサービス	29
12.	観 光	30
13.	治安、緊急時の心得	32
14.	出入国手続および帰国手続	33
15.	私財の輸送、引き取り、購入	35
16.	社 交	37
17.	任国官公庁	38
18.	在外日本関係機関など	43
19.	地方都市	44

I 概況

表-1：パプア・ニューギニア概況

正式国名	(和文) パプア・ニューギニア (英文) Papua New Guinea
独立年月日 旧宗主国	1975年9月16日 オーストラリア
政 体	エリザベス二世女王を国家元首とする立憲君主制
元首の名称	ウィワ・コロウイ総督(1992年11月就任、任期6年)
位置・面積	南緯0～12度 東経141度～160度 463千平方キロメートル (注1)
首 都	ポートモレスビー (Port Moresby)
総人口	407万人(1995年)
民族等	パプア族、メラネシア族
公用語	公用語：英語 共通語：ピジン・イングリッシュ、ヒリ・モツ語
宗 教	キリスト教、伝統宗教
暦	<日本との時差> 1時間 <祝祭日> (1997年) (注2) 1月1日 新年 3月28～31日 イースター 6月14日 女王誕生日 7月23日 戦没者追悼記念日 9月16日 独立記念日/憲法記念日 12月25日 クリスマス 26日 クリスマスの贈り物の日

出所 (注1) World Development Report 1996 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

(1) 国土の概要

面積は463千平方キロメートル（日本の約1.2倍）で、南緯0～12度、東経141度～160度に位置する。ニューギニア島の東側半分（西半分はインドネシア領）の他、ニューブリテン島、ニューアイルランド島、ブーゲンビル島、マヌス島など、大小合わせて数千もの島々から成り立っており、南太平洋諸国の中で最大の国土を有する。

ニューギニア本島中央部には第三紀以降の造山・造陸運動及びそれに伴う火山活動によって形成された峻険な背梁山脈（最高峰はウイルヘルム山で標高4,509キロメートル）が連なり、断層、褶曲、火山形成、氷食地形、カルスト地形等複雑な地形となっている。ニューギニア島からニューブリテン島、ブーゲンビル島にかけては環太平洋造山帯に属する多くの火山があり、1994年9月に噴火による被害も出ている。この背梁山脈の北岸のセピック川流域、ラム川、マーカム川流域の地溝帯に沖積平野が発達し、セピック右岸には広大な沼沢地が広がっている。また、南岸には、フライ川、キコリ川、ブラリ川等の大河川がみられる。

土地は一般に肥沃であり、熱帯雨林気候のため森林資源は豊富で、森林面積は国土の80%を占めており植生は沿岸部の熱帯低地降雨林から高地の山岳まで多様である（数値はAPIC資料、1993）。

(参考文献)

【続・南太平洋島しょ国】 1992 日本貿易振興会

【パプア・ニューギニアの経済社会の現状】 第3版 1993 国際協力推進協会

(2) 気候

熱帯多雨気候帯に属し、一般的には高温多湿であるが、降雨量は地域によってかなり差がある。首都ポートモレスビーの年平均降雨量は約1,195ミリメートルで、パプア湾沿岸のキオリでは5,080ミリメートルである。

乾季が5月から10月までで、雨季は12月から3月までである。気温は年中ほとんど変わらず、沿岸部は最低21℃～最高32℃の間である（数値は日本貿易振興会資料、1992）。

(参考文献)

【続・南太平洋島しょ国】 1992 日本貿易振興会

【パプア・ニューギニアの経済社会の現状】 第3版 1993 国際協力推進協会

(3) 人口

1995年の人口は約407万人であった。人口密度の最も高いのはハイランド地方であり、人口の約半分が住んでいると推定される。都市人口は、首都ポートモレスビーが19万人、ラエ8万人、マダン3万人、ウェワク、ゴロカ、ラバウル、マウントハーゲン各2万人となっている（数値は海外経済協力基金資料、1992）。

(参考文献)

World Development Report 1996 The World Bank
『基金調査季報』No.73 1992 海外経済協力基金

(4) 略史

表-2: パプア・ニューギニア略年表

年	出来事
1526年	ポルトガル人メネセスがニューギニアの北西岸に上陸し、「パプア」と命名する。
1545年	スペイン人レテスがニューギニア北岸沿いに東航し「ニューギニア」と名づける。
1606年	スペイン人トレスがニューギニアとオーストラリアを隔てる海峡を発見。これによりニューギニアが島であることが明らかになる。
1770年	英国人ジェームズ・クック、ニューブリテン島に到達する。
1828年	オランダが西半分の領有を宣言する。
1884年	ドイツ（ニューギニア東北部：ドイツ領ニューギニア）、英国（ニューギニア南岸及び東経 141～155度と南緯5～12度の間の諸島：英領ニューギニア）の保護領となる。
1906年	英国、英領ニューギニアをオーストラリアの管轄に移す。
1914年	第1次大戦下において、オーストラリア軍、ドイツ領ニューギニアを占領（21年まで）。
1921年	国際連盟、ドイツ領ニューギニアの当地をオーストラリアに委任する。
1942年	太平洋戦争で日本軍が東部を占領。日本軍進駐に伴い、オーストラリアはパプア、ニューギニア両地域を一元的に統治し、一人の行政長官を置く。
1945年	日本降伏。オーストラリア議会在法により両地域をTerritory of Papua and New Guineaとして1人の行政長官(Administ rator)による一元的統治とする。
1946年	国連の信託統治地域となる（オーストラリア施政権者）。
1963年	立法評議會を廃止し、議會を設置。西半分がインドネシア領西イリアンとなる（現イリアンジャヤ）。
1964年	第1回住民議會開催される。
1972年	第3回総選挙。バング党が人民進歩党と連立政権を樹立するバング党党首のソマレ氏が首席大臣に就任する。
1973年	12月 内政自治に移行（国防、外交、司法はオーストラリアが管轄）する。
1975年	3月 オーストラリアより外交権・国防権の委譲を受ける。 9月 独立、初代総督にジョン・ギース、ソマレ首席大臣が引き続き首相となる。 10月 国連加盟。
1977年	6月 第4回総選挙実施（独立後、初の総選挙）。 8月 第2次ソマレ内閣成立。
1978年	11月 第3次ソマレ内閣成立。
1980年	3月 チャン内閣成立。
1982年	6月 第5回総選挙実施。 8月 第4次ソマレ内閣成立。
1984年	12月 第5次ソマレ内閣成立。

次ページへ続く。

年	出来事
1985年	4月 第6次ソマレ内閣成立。 11月 第1次ウィンティ内閣成立。
1986年	12月 第2次ウィンティ内閣。
1987年	6月 第6回総選挙実施。 8月 第3次ウィンティ内閣成立。 12月 第4次ウィンティ内閣成立。
1988年	7月 ナマリユー内閣成立（経済・福祉の重視の政策策定）。 12月 ブーゲンビル島で過激派の地主が反政府暴動を起こす。
1989年	5月 ブーゲンビル騒動により銅鉱山操業停止、非常事態宣言。
1991年	新経済政策（財政支出削減、通貨切り下げ）実施。
1992年	6月 第7回総選挙実施。 7月 第5次ウィンティ内閣成立。
1993年	9月 ウィンティ首相突然辞任し、内閣不信任案を行使される道を自らふさぐ。翌日の議会で首相に再選される。 12月 APEC（アジア太平洋経済協力会議）加盟。
1994年	8月 最高裁判所がウィンティ首相の再選を無効とし、再選挙を命ずる判決を下す。 9月 チャン内閣発足成立。 10月 ブーゲンビル革命軍との和平交渉再開。PKF派遣。
1995年	4月 ブーゲンビル島で暫定州政府が発足。首相に元BRAのセオドア・ミリウム氏が選ばれる。

出所 【パプア・ニューギニアの経済社会の現状】 第3版 1993 国際協力推進協会
【最新世界現勢 1995】 1995 平凡社
【続・南太平洋島しょ国】 1992 日本貿易振興会

(参考資料)

【続・南太平洋島しょ国】 1992 日本貿易振興会
【パプア・ニューギニアの経済社会の現状】 第3版 1993 国際協力推進協会
【最新世界現勢】 1995 平凡社

(5) 民族等

アジアから渡った人々が5,000年前から居住していたと考えられているが、ハイランド地方の谷間では8,000年以上も前の農耕集落の遺跡が発見されている。その後、カヌーでやって来たポリネシア、ミクロネシアの人々、マレー系、ジャワ系の人々が混血して現在に至っている。パプア・ニューギニア人のほとんどがメラネシア系人種である。パプア族とメラネシア族とに分類されるが、今日両者を区別することは困難である。マヌス島北部のミクロネシア系人種、スクマヌ諸島のポリネシア系人種は非常に少数である。

(参考文献)

【オセアニアを知る辞典】 1990 平凡社
【続・南太平洋島しょ国】 1992 日本貿易振興会

(6) 言語

住民生活が、ジャングルや険しい山岳地形などの自然条件で分断されていたために言語の多様化が生じ、全土で 830 以上の多種言語が使用されている。共通語として、ピジン・イングリッシュ（主にハイランド、本島北部、諸島部で使用）とヒリ・モツ語（パプア地域、本島南部で使用）の 2 つがある。公用語は英語である（数値は EIU 資料、1994）。

(参考文献)

Country Profile: Papua New Guinea 1994-95 1994 EIU

(7) 宗教

キリスト教が広く普及しているが、多くの地域では今なお伝統的な祖先崇拜、靈魂崇拜などの宗教も根強く残っている。死者崇拜、頭蓋崇拜がみられ、セピック川流域などでは死者の頭蓋骨に粘土で肉づけして彫刻を施し化粧する。これらの造形作品は人々の生活に加護をもたらす精霊や祖霊に対する信仰や崇拜のためにあり、また青年男子の誕生、戦闘での成功、豊作祈願などのためにある。

(参考文献)

【オセアニアを知る辞典】 1990 平凡社

【パプア・ニューギニアの経済社会の現状】 第 3 版 1993 国際協力推進協会

(8) 文化

都市部を除けば、人々は伝統的生活を守っており、自らの伝統文化に強い誇りを持っている。互いに似てはいるが、独自の文化をもった社会が言語の数だけ存在している。メラネシア地域では一般に同郷意識による団結が非常に強い。

ピジン・イングリッシュには「同一言語を話す人」あるいは「同じ部族出身者」を示す語として「ワントク (Wantok)」がある。これは英語の "One Talk" から来ている。都市生活でも同部族・同郷出身者に対してはワントクであるということで様々な面で協力することが頻繁にみられ、また見ず知らずの相手でもワントク同士は互いに協力し合うことが期待されている。

厳しい自然環境から、各部族は小規模・孤立的で、婚姻関係も同一部族から選ぶのが普通である。「ワントク」においては徹底的な相互扶助の関係で結ばれている。一方、異部族間で（個人的なものであれ）問題が生ずれば、ペイバックシステム (Pay-back) もあり、容易に部族間抗争に発展することもある。

ニューギニア島北東岸沖のマヌス州にあるマヌス島では、女が外で農耕を行い、男が育児と炊事を担当する伝統があり、人形に興味を持つのは女兒ではなく男児であったと言われている。ニューギニア島東端のミルン湾州のトロブリアンド諸島では、あらゆる男女の禁忌の中で兄弟と姉妹のそれが最も強く、年ごろになると兄弟と姉妹は互いに顔も見ないようにしなければならない。この社会は現在も母系制をとっており、子供は母側の集団に

属する。従って父は子供にとっては他の集団に属する者であり、財産その他は母方のおじから譲られる。

ニューギニア島北西部の東セピック州にいるムンドゥグモール族 (Mundugumor) では、人々はいくつかの集団 (〈紐〉と呼ばれる) に属しているが、男子は母の集団に属し、女子は父の集団に属するというルールを持っている。セピック地方の人々は、その見事な美術工芸品によっても知られている。

(参考文献)

【オセアニアを知る事典】 1990 平凡社

【基金調査季報】 No. 73 1992 海外経済協力基金

(9) マスメディア

1) 新聞

主な新聞は次の通りである。

Papua New Guinea Post-Courier (英字/日刊/約3万部)、The National (日刊/約2万部)、Wantok (ピジン語/週刊/約1万5千部)、Weekend Sport (英字/週刊/約8千部) (以上数値は Europa Publications 資料、1995)。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

2) 放送

ラジオは、国営放送協会 (3局) がAM、FMで放送しており、特に地方では最も依存度の高い情報源となっている。

一部地域で行われていた民営ケーブルテレビに加え、1987年初めに民営テレビ (オーストラリア系のメディア・ニューギニア社によるEMTV) の放送が開始された。放送は夕方から夜12時まで、英語及びピジン語により、現地ニュースのほか外国映画を放映している。また、ケーブルテレビを利用すればオーストラリアのABCテレビ及びインドネシア、米国、マレーシアの放送が受信できる。しかし、一般国民にとっては経済的負担が過ぎ、普及率は低い。

1992年において、ラジオは29万8千台、テレビは1万台 (Europa Publications 資料、1995) が普及している。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

【パプア・ニューギニアの経済社会の現状】 第3版 1993 国際協力推進協会

表-3：経済指標 [パプア・ニューギニア]

主要経済指標の 推移	年	(1992)	(1993)	(1994)
GDP (百万キナ) (注1)		4,140	4,979	N.A.
一人当たりGNP (ドル) (注2)		950	1,130	1,240
実質GDP成長率 (%) (注1)		11.8	14.4	N.A.
消費者物価上昇率 (%) (注1)		4.3	5.0	2.9
失業率 (%) (注3)		記載なし		
貿易収支 (百万ドル)		629.2	1,369.9	N.A.
輸出額(fob)		1,950.9	2,504.7	N.A.
輸入額(fob) (注1)		1,321.7	1,134.8	N.A.
主要輸出入相手国 (注4)		輸出 (1993年) オーストラリア (35.8%) 輸入 (1993年) オーストラリア (46.7%)		
経常収支 (百万ドル) (注1)		97.0	554.3	N.A.
対外債務残高 (百万ドル) (注5)		3,740	3,224	2,878
債務返済比率 (%) (注5)		29.3	29.0	29.0
外貨準備高 (百万ドル) (注2)		260	166	120
通貨 (1997年1月)	通貨単位：キナ (Kina) 1ドル=1.3426キナ			
会計年度	1月1日～12月31日			

- 出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1995 IMF
(注2) World Development Report 1994-1996 The World Bank
(注3) Year Book of Labour Statistics 1995 1995 ILO
(注4) Country Report: Pacific Islands 3rd quarter 1996 EIU
(注5) World Debt Tables 1996 1996 The World Bank

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

日本食材の入手は難しく、邦人家庭では日本の味を出すため様々な工夫をしている。通常、ポート・モレスビーでは水道水はそのまま飲めるが、昨今給水システムに問題があり、煮沸した方が無難である。

(2) 主な食料の出回り状況

牛肉は日本で買うよりもかなり安く、当国産またはオーストラリア、ニュージーランド産のものが入手可能である。魚もスーパーマーケットにて購入可能である。

野菜は大抵のものが出回っている。米はオーストラリア産のジャポニカ米、インデイカ米、及び中国産のもち米が入手できる。

(3) 食料の入手

食料品の多くは、Boroko, Town, Taurama 付近のスーパーマーケットで入手できる。ただし、ローカルマーケットよりも少々割高である。

<野菜>

ゴードンローカルマーケットなどで新鮮で安いものが入手できるが、スリには要注意である。

たまねぎ（時々質が悪くなる）、ジャガイモ、にんじん、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、レタス、マッシュルーム、トマト、ピーマン、もやし、ねぎ、かぼちゃ、さつまいも、なす、きゅうり、白菜、オレンジ、りんご、レモン、バナナ、パイナップルなどは、一年中手に入る。

季節によっては、おどろ、なし、パイナップル、パッションフルーツ、キウイ、マンゴ、スイカ、大根、にらなども手に入る。

<日本食品>

しょうゆ、味噌、だしの素、みりん、味の素、そうめん、うどん、そば、豆腐（宅配あり）、海苔、ソース、とんかつソース、すし酢、酢、ごま油、ラー油、カレー粉、わさび、マヨネーズ、てんぷら粉、あられ、大豆、小豆などは入手できる。

ものによっては出回らない時期や有効期限が切れている品もあり、値段も非常に高い。赴任時に持参するか、または任国外旅行などで購入するのが望ましい。

ただし、日本食の多くは検疫上没収対象となっているので注意すること。

主なショッピングセンターは、つぎの通りである。

Anderson's Food Land……コキ、ラエ、ラバウルにチェーン店を持つ。ポート・モレスビーのコキにある店は、外国人の多くが使っている。

Boroko Food World……ボロコにあり、数種類の日本食がある。

Stop'n Shop……Steamships 系の当国最大のチェーンストアである。タウン、エラビーチ沿い、ワイガニドライブ沿いにある。

Taurama Supasave……日本食、中華料理系のものがいくつもある。

Papindo……ラエを中心にチェーン店を持つ。

<酒類>

スーパーマーケットの一角に酒類のコーナーが設けられ (Bottle Shop)、ビール、オーストラリア製ワイン、ウイスキー、シャンペン、ブランデーなどが入手できる。特にワインは品揃えが豊富である。また、店によっては月桂冠の中瓶をおいている。

ポート・モレスビーの主な酒店は下記の2店である。

Steamships Liquor Barn……エラビーチ沿い。

Territory Cellars……ワイガニドライブ沿い。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

洋食用のものに関しては、デザインなどにさほどこだわらなければ入手可能である。日本の食器はほとんどない。持参するか、前任者から買うか、あるいはシンガポール、オーストラリアなどで購入する。

ポート・モレスビーでは、ポロコ商店街のブライアンベルプラザ (Brian Bell Plaza) が品揃えが豊富である。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

炊飯器、おろし金、かき氷器、すり鉢、各種和風包丁、和食器 (茶碗、お椀、急須、湯飲み、箸、菜箸など) などは持参した方がよい。

来客の際の食事はピュッフェ形式で、大皿から各人が取って食べるのが一般的である。大きめの取り皿 10 数枚と盛り皿 4～5 枚くらい、特に和食用のものを持参すると便利である。

1-3 外食

(1) 飲食店

レストランは日本料理店 1 軒、西洋料理店約 10 軒、中華料理店約 10 軒がある。

ほとんどの店ではアメックス、マスターを中心にクレジットカードが使えるが、予約を兼ねて電話で確認したほうがよい。なお、レストランでのチップは不要である。

中華料理店のほとんどは持ち帰りのみのオーダーも可能である。電話で予約してから取りに行くといよい。主な店は次のとおりである。

飲食店	所在地	電話	備考
Asia Aroma (中華・タイ)	TOWN Stop'n Shop 本店の 1階	3214780	毎日営業。昼食 11:30～4:00, 夕食は 17:30～21:30。
GREEN JADE (中華)	KONEDOBU の ROYAL PAPUA YACHT CLUB 内	3214611	昼食は 12:00～14:00 の毎日。夕食は 17:30～ 21:00 で月曜の夜定休
ORCHID GARDEN (中華)	エラビーチからタウンへの 途中	3212765	昼食は 11:00～14:00 で月～金、夕食は 17:00 ～22:00 で毎日営業
GOLDEN BOWL (中華)	ワイガニ官庁街近く	3251656	昼食は月～金 11:30～14:00、日曜のみ飲茶で 11:00～15:00。夕食は月～金の 18:00～22:00
PORT VIEW (マレー・中華)	タウン。日本大使館のあ るビルの一階。	3217702	昼食は 9:00～14:00、夕食は 18:00～22:00 毎 日営業

次ページへ続く。

飲食店	所在地	電話	備考
HOTO CITY (中華・韓国)	タウラマ商店街2階	3258888	安価。昼食は毎日11:30～14:00、夕食は17:30～21:30 日曜定休
FORTUNA SEAFOOD (中華)	ワイガニドライブ沿い	3251993	Steam Board (鍋料理)。要予約、昼食月～金12:00～14:00。夕食は毎日18:00～22:00
MARCO POLO (中華)	BOROKO の TABARI PLACE 商店街	3253373	個室利用可。毎日営業、日曜は飲茶。昼食は12:00～14:00、夕食は18:00～22:00
SHANG PALACE (中華)	ワイガニドライブ沿い (Cathay Club 内)	3258898	昼食は土曜以外12:00～14:00、夕食は毎日18:00～21:30
BOROKO FOOD CENTRE	Boroko, Garden City の向かい	3250647	毎日営業。昼食10:00～14:00、夕食18:00～22:00
DAIKOKU RESTAURANT (鉄板焼)	Taurama 商店街2階	3253857	昼食は12:00～14:00 (土・日除く)、夕食18:00～21:30 (日曜除く)
SEOUL HOUSE (韓国)	5マイル交差点近く。	3252231・ 3252078	個室有り。昼食11:30～14:00 (土・日を除く) 夕食は毎日17:30～22:00
GALLEY RESTAURANT (洋食)	Konedobu, Aviat Club に隣接。		木曜日はビュッフェランチ、約17キナ。要予約。昼食は11:30～14:30、夕食は18:00～22:30
STAN'S (洋食)	Town 中心街	3214807	昼食11:00～15:00、夕食18:00～21:30
SPAGHETTI HOUSE	Kunai Street, Hohola ワイガニドライブ沿い Stop'n Shop 近く。	3259335	夕食17:30～21:30。 毎日営業 (要電話確認)
SAPPHIRE'S BISTRO (ドイツ風)	ポロコ郵便局となりビル2階		土日を除き10:00～22:00。 土曜は10:00～14:00。
APOLO RESTAURANT	East Boroko, Lae	3232399, 425749	
RAPALA RESTAURANT (洋食)	TRAVELODGE HOTEL 内 (1F)	3212266	世界の様々な料理のビュッフェ、朝食6:00～10:00、昼食12:00～14:30、夕食18:30～24:00
KOPI HAUS (洋食)	ISLANDER TRAVELODGE HOTEL 内 (GF)		7:00～深夜まで毎日営業
GRILL (洋食)	ISLANDER TRAVELODGE HOTEL 内 (1F)	3212266 ext. 2240	昼食12:00～14:00、夕食18:30～22:30、 毎日営業
ELA BEACH HOTEL		3212100	6:00～22:00 で毎日営業、ピザの持ち帰り可
KWANGTUNG VILLAGE	Mangola Street And Huon Road, Lae		昼食(土曜除く)12:00～14:00、夕食は18:00～23:00、毎日営業
JACKSON'S RESTAURANT (洋食)	空港近く。GATEWAY HOTEL 内 (1F)	3253855	朝食は6:00～10:00、昼食は12:00～14:00、 夕食は18:00～22:30、毎日営業
AIRWAYS MOTEL BACCHUS RESTAURANT	空港近く。	3245261	朝食6:00～10:00、昼食12:00～14:30、 夕食18:00～22:00 毎日営業
LITTLE INDIA (インド料理)	タウラマ商店街並び	3253331	昼食 (土・日を除く) 12:00～14:00。夕食は18:00～22:00。

(2) その他の飲食店

DEPARTURE LOUNGE (ピザ・喫茶店)

所在地：空港近く。GATEWAY HOTEL内 (GF)

備考：10:00～深夜まで営業

MALA MALA COFFEE SHOP (軽食)

所在地：TRAVELODGE HOTEL内 (BF)

電話：3212266 ext. 2474

備考：10:00～23:00、毎日営業。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

全般的に高温多湿のため、衣料品は綿とポリエステル混紡、麻などの生地を選ぶとよい。これらは中国製品などが安く入手できるが、邦人向けのサイズ、デザインは少ないため持参することが望ましい。任国外旅行などで調達するのも一案である。

海岸部は高温多湿であるが、山岳地帯は涼しい。また近隣のオーストラリアなどは四季もあるので、これら地域に旅行を計画する人は長袖も必要である。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

衣類から寝具に至るまで、一通りは持参した方がよい。特にタオルケットは入手できない。7～8月の夜は多少冷え込むが、タオルケット2枚程度で凌ぐことができる。毛布の調達が可能であるが、品質、値段を考慮して、やはり持参することをすすめる。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

平べったいゴムぞうりは安い。枕および枕カバー、ベッドシーツ、タオルはオーストラリア製のものが豊富にそろっているほか、中国製品もある。

(4) その他の留意点

山岳部においては、より一層の防寒が必要となる。

2-2 礼装

(1) パーティー

公式（トロピカル・フォーマル）のレセプションにおいては、男性は長袖のワイシャツ、ネクタイ、長ズボン、女性はワンピース（またはロングドレス）を着用する。

非公式（インフォーマル）の場合、男性はワイシャツ（またはバティックのシャツ）、ノーネクタイ、女性はワンピースの着用が一般的である。和服は特に必要ない。

パーティーだからといってあまり華美な服装をする必要はない。

(2) 式典

トロピカル・フォーマルが普通であり、フォーマル（背広着用）は大臣クラスが主催する式典のみである。

(3) 冠婚葬祭

冠婚葬祭のほとんどは教会で行われる。トロピカルフォーマルの服装で、祝礼状（お悔やみ状）と結婚祝品、花束などを持って参加する。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は数軒あるが、少々割高である。日常的には家政婦／夫に洗濯してもらい、スラックスなどをクリーニング店に頼むようにするとよい。ポート・モレスビーのクリーニング店には、朝集配し、午後配送してくれるところもある。

(2) 仕立て、修繕

技術レベルは高いとはいえない。値段は張るが、カーテンなどの室内装飾品は満足のいくものを作ってもらえる。

(3) 保管

衣類（ネクタイ含む）、革製品などは、1度でも着用すると雨季の間にかびが生えやすいため、乾燥剤を持参するとよい。洋服ダンスなどに置く除湿剤・除虫剤製品は入手可能である。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

ポート・モレスビーにおいては、外国人向け住宅の物件数は増加傾向にあるものの、需要も高く、また、近年は優良な物件を法人が借上契約するケースが増えている。数年来、貸し手優位の状況は変わらず、家賃は非常に高額である。

住宅は、日本大使館やポート・モレスビー港のあるタウン地区、あるいはJICA事務所、中央郵便局、商店街のあるボロコ地区に多く、JICA事務所員、専門家もこれらの地区の集合住宅に居住している。一戸建て住宅もあるが、安全対策上望ましくない。

地方都市においては外国人向け住宅の物件数は少なく、選択の幅は限られる。

下宿はない。

3-2 ホテル事情

首都、地方とも割高であり、二級ホテルでも東南アジアの一級ホテルとほぼ同じ値段になる。

主なホテルは次のとおりである。いずれもバスルーム、トイレ、エアコン、テレビ、冷蔵庫などの設備が備わっている。

<ポート・モレスビー>

(*JICA料金)

ホテル	所在地	TEL, FAX	宿泊料金 K:キナ	備考
Port Moresby Travelodge	Town	3212266, 3217534	*K220.00 All Rooms+3%	日本大使館、商社事務所に近い
Islander Travelodge	Waigani	3255955, 3250837	*K140.00 Garden+3%	官庁街に近い
Airways Hotel	Seven Mile	3257033, 3250759	*K125.00 All Rooms+3%	空港前、長期滞在者用7 パートタイプ有り
Ela Beach Hotel	Town	3212100, 3212434	*K90.00 Single+3%	エレベータ沿い、7パ ートタイプ有り
Granville Motel	Six Mile	3257155, 3257672	K81.37, Single, K99.14 Family K145.00~ Apart(税込み)	空港に近い 価格は税込み
Lamana Motel	Waigani	3232333, 3232444	K99.00 Single +3%	官庁街に近い

<地方都市>

ホテル	所在地	TEL, FAX	宿泊料金 K:キナ	備考
Lae International Hotel	Lae Morobe	4722000, 4727000	*K166.50 Deluxe +3%	レイ市中心部
Melanesian Hotel	LaeMorobe	4723744, 4723706	*K144.50 Standard +3% *K161.50 Premier+3%	レイ市中心部
Rabaul Travelodge	Rabaul East New Britain	9821111, 9821112	K95.00 Single +3%	ラバウル市中心部

次ページへ続く

ホテル	所在地	TEL, FAX	宿泊料金 K:キナ	備考
Hamamas Hotel	Rabaul East New Britain	9821999, 9821970	K55.00 Single +3% K90.00 Twin, *K110.00 Executive	ラバウル市中心部朝食込み
Madang Resort Hotel	Madang Madang	8522655, 8523325	K65.00 Budget +5% K70.00 Standard *K128.00 Delux	マダン市中心部他にバンガロータイプ有り
Bird of Paradise	Goroka Eastern Highlands	7321144, 7313100	K145.00 Standard K190.00 Delux (税込み)	空港前
Highlander Hotel	Mt. Hagen Western Highlands	5421355, 5421216	K175.10 Standard K195.10 Premier (税込み)	マウントハーゲン市中心部

赴任する JICA 職員、専門家あるいは出張者に対し、JICA 事務所では原則としてポート・モレスビーでは POM Travelodge、または Islander Travelodge、レイにおいては Lae International または Melanesian を予約している。

3-3 住宅の探し方

新聞広告、または数社ある大手不動産会社（下記参照）に直接コンタクトする方法が考えられる。不動産会社の多くはオーストラリア資本の現地会社であるが、サービス・信頼度はさほど期待できない。できれば JICA 関係者と契約実績のある会社が望ましい。可能であれば、前任者の住宅を引き継ぐのが最善である。

Credit Corporation ……電話：321 7066、

Century 21 ……電話：321 2121、

Professionals ……電話：321 4033、

L.J.Hooker ……電話：320 0738

3-4 住宅の選定上の留意点

安全対策の見地から、防犯設備の強度や周辺の治安環境が最優先すべき点である。併せて水や電気の供給状況も重要なポイントとしてあげられる。これらの条件が満たされた上で、建物の外観・内装、付帯設備、眺望等の条件を考慮することが肝要である。マンション型あるいはタウンハウス型の外国人向け集合住宅の多くは、24 時間警備員が配置され、給水タンク、停電時用大型発電機等の他、近代的な設備を備え快適性は高い。

3-5 住宅の契約

できれば 1 年間前払い方式にするとよい。それにより好物件を確保しやすく、入居後の家主との関係もよりスムーズになる。家具、冷蔵庫、洗濯機、電気（ガス）コンロ・オープンなどはすべて備え付けの物件がほとんどである。契約時には、契約期間・契約金額・付帯設備等の他、契約更改時の家賃値上げ率、敷金・契約書作成料の有無、設備補修が家主側負担であるかどうか等について確認することが必要である。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、電話については入居時に各自申し込むのが通例であるが、物件によっては電気代は家主に支払うところもある。通常、水道料金は家賃に含まれている。

電話の開設は TELIKOM（電電公社）に申請するが、開設までには最低2週間から3週間はかかる。また、それ以上かかることも珍しくない。料金は60キナ及び外国人の場合は、Depositの200キナが必要である。早く開設するためには何度もあきらめずに督促することである。

電話料金の請求書は前の月に支払ったものが翌月も請求されることが多い。前月の領収書と照らしあわせ、重複の際はこれを支払いカウンターで提示し、差額のみを支払う。なお電気料金も同様である。

3-7 その他

該当情報なし。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法等）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

義務は一切ないが、破傷風、B型肝炎、A型肝炎の予防接種を赴任前に済ませるのが望ましい。ツベルクリン反応陰性の人は、BCG接種も必要である。

長期専門家に関しては、ビザの発給に際し、エイズ検査を受診し、陰性証明を受けることが義務づけられている。

(2) その他の準備

歯科治療は済ませておいた方がよい。

当地では各州都のGeneral Hospitalで可能であるが、技術的には首都の歯科医院を勧める。首都の歯科医院は技術的には満足できるが、高額である。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

1. 首都

国立総合病院としてPort Moresby General Hospitalがある。PNG大学医学部の附属病院であり、教育施設ともなっている。しかし医療水準は高いとはいえず、重症者をオーストラリアに移送することも少なくない。

手術、出産、高度な技術を要する検査等はオーストラリアで行うことが望ましい。在留邦人は私立病院、開業医を受診することが多い。

<公立>

Port Moresby 1 Genera Hospital

診療科目：総合病院

所在地：Taurama Road

電話：3248200

備考：基本的には他の病院、開業医からの紹介状がないと受診できない。CT、MRIなどの撮影設備はない。

<私立>

初診料は約30キナ、専門医の場合は40~50キナ必要である。内服薬は一種類約10キナ、注射は30~40キナ必要である。入院費は個室で1日約250キナである。

A&M 4mile Private Hospital

診療科目：内科、産婦人科、小児科、放射線科、外科*、整形外科* (*予約制)

所在地：Stores Road, Four Mile

電話：325-8600、FAX：323-5767

備考：医師はエジプト人、フィリピン人、インド人。ベット数30床。マ

ラリヤ検査、血液検査、細菌検査、レントゲン検査可。分娩設備、手術設備有り。CT導入の予定。

The Private Hospital

診療科目：内科、小児科、産婦人科、歯科

所在地：Taurama, Korobosea

電話：325-6022 Fax：325-8212

備考：内科12床、その他に産科病棟がある。内科医2名、産婦人科医2名、マラリヤ検査、血液検査、細菌検査可。分娩設備あり。

Port Moresby Medical Service (Dr. S. Webb)

診療科目：内科、産科、小児科

所在地：Reke Street, Boroko

電話：325-6663

備考：オーストラリア人他、医師2名。土、日は午後2時まで受け付け。

Jacobi Medical Centre (Dr. Jacobi)

診療科目：内科

所在地：Reke St, Boroko Johnston Pharmacy の裏

電話：325-5355

備考：オーストラリア人。

Dr. T. Choon Tan

診療科目：内科

所在地：9 Gavamani Mall Korobosea

電話：325-3925

備考：シンガポール人。

Ma Clinic

診療科目：内科、整形、鍼・マッサージ

所在地：Cameron Rd.

備考：中国人。夜間の受け付け可。往診可。

Dr. Sharp

診療科目：産婦人科、小児科

所在地：Johnston Pharmacy (Boroko) の横

電話：325-4244

備考：フィリピン人。女医。

Dr. Mary Joku Ponifasio & Dr. P Mann Ponifasio

診療科目：耳鼻咽喉科、消化器科

所在地：Lower Gnd Floor, Investment Haus, Douglas St. Port Moresby

電話・FAX：320-1688

備考：DR. Mary は PNG 人で唯一の耳鼻咽喉科専門医。

<眼科>

Dr. P. Korimbo

所在地：Garden City (JICA Office のあるビル)

電話：325-6433

備考：PNG 人。

<歯科>

Dr. Jalal R. Mills

所在地：Dr. Jacobi の上の階にある。

電話：325-9692

備考：オーストラリア人。アマルガム以外の金属充填や歯冠の作成には1~2ヶ月間必要であり、金・白金・ポーセリンのなどの高級材料しか扱っていないため、高額である。

2. 地方

公立病院は、各州都に General Hospital、小都市には Health Centre がある。また、主要都市には私立の開業医があり、公立病院より利便である。

<Lae>

TUSA Medical Centre

診療科目：内科、整形科、産婦人科

電話：472-4688

備考：血液検査、レントゲン検査、マラリア検査可。

<Goroka>

TUSA Medical Centre

診療科目：内科、産婦人科

電話：732-2727

<Madang>

Madang Medical Centre (Dr. C. Kalana)

診療科目：内科

所在地：Kasagten Rd.

電話：(BH) 852-2828 (AH) 852-2513 FAX：8523938

備考：マラリア検査可。

<Mt. Hagen>

Marian Medical Clinic

診療科目：内科

所在地：マウントハーゲン病院横

<Wewak>

Valley Lane Private Clinic

電話：852-2382

<Rabaul>

開業医はいない。公立の Nonga Base Hospital、私立の Vunapope Hospital が活動している。

3. その他

大使館の医務官は、診療行為は認められていないが、医療相談には応じている。また、年1回外務省の巡回医師団が派遣され、血圧、心電図、尿検査などが可能である。健康相談にも応じてもらえる。

(2) 緊急時の対応と措置

1. 首都

POM General Hospital の救急窓口 (Casualty) は 24 時間態勢をとっている。電話 (324-8200) をするよりは、直接行った方が早い。混んでいることが多い。

私立病院では A&M 4mile Private Hospital でも 24 時間対応している。その他の開業医でも、受付け、往診をしてくれる医師がある。

救急車は St. Jhone Ambulance Srevice (325-6822 有料 10 キナ) がある。

2. 地方

公立病院が 24 時間対応している。まず、電話すること。

3. その他

当国で処置不可能な場合はオーストラリアのケアンズ、タウンズビル (潜水病治療施設がある)、ブリスベンなどへ移送される。

JICA Australia Office

住所: Level 16, AMP Centre, 50 Bridge Street, Sydney, 2000

電話: (61-2)92337652

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

JICA 職員及び長期専門家は、共済会支給の医療品でよい。また、常用薬があれば持参するとよい。

総合感冒薬、鎮痛解熱剤、湿布薬はないので持参すること。その他は概ね入手可能である。

(2) 任国で調達できる医薬品

医薬分業のため、原則として一部の薬品以外は医師の処方箋を必要とする建前であるが、入手は困難ではない。オーストラリア製の医薬品がひとつお持ち揃っており、在庫のない場合には空送で取り寄せることが可能である。本邦と同一名のものであるが、薬品名が異なる場合もあるので、本邦出発前にかかりつけの医師に依頼して、一般名、用法および用量を英文で記載した紙を持参するとよい。

(3) 任国で調達できる衛生用品

オーストラリア製が入手可能である。ただし生理用品に関しては、品質や価格を鑑みて、日本製を持参するとよい。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

日本製の医薬品と同じ薬品名であっても、容量や成分に相違があることがあり、添付文書、あるいは当地の医師の指示に従い、用法に注意すること。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

妊娠検査薬は薬局で購入できる。普通分娩に際しては特に問題ないが、初産は避けた方が無難である。

開業医に主治医になってもらう。6ヶ月までは2ヶ月ごとに、9ヶ月までは1ヶ月ごとに、その後は毎週検診を受ける。

出産は主治医のいる開業医院で可能である。産気づいたら入院し、通常、出産翌日

には退院となる。邦人の多くは日本で出産している。

(2) 出産後の対応

出生直後、あるいはできる限り早い時期にBCG、ポリオ、A型肝炎ワクチンを接種する。注射針は使い捨てのものを使用している。1ヶ月後、主治医に検診を受ける。当国人の場合は1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月時に3種混合（百日ぜき、ジフテリア、破傷風）とポリオが義務づけられている。また、8～9ヶ月までに、MMR（麻疹、おたふく風邪、風疹）を接種する。外国人の場合は両親（保護者）の判断による。

両親とも外国人である子供は、PNGの国籍は取得できない。役所への届けは日本大使館のみで、PNG政府には不要である。

(3) 育児

哺乳瓶、乳首、おしゃぶりは薬局で購入できるが医師の証明書が必要である。

布おむつと紙おむつも入手可能であるが、紙おむつは少々割高である。布製のおむつカバーは入手不可能であり、日本から持参すべきである。トレーニング・パンツの入手も確実ではないので持参すること。

粉ミルクはオーストラリア製が入手可能である。ベビーカーの良い物は少ない。

安心して任せられるベビーシッターを見つけることは容易ではないが可能である。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

該当情報なし。

(2) 手術設備の状況

各州都の公立病院では基本的な手術設備、および機器は揃っている。

(3) その他の留意点

公立病院でも医薬品が十分でないことがあり、当地での手術はあまりすすめられない。緊急時に処置を行っても、その後はオーストラリアに移送した方がよい。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

赤道下といえども、7月から8月はハイランド地方はもちろん、首都でも早朝はかなり冷え込む。風邪などに注意が必要である。

HIVや、その他性病感染者は少なくない。

(2) 風土病・伝染病

標高1800m以下はマラリア汚染地域である。ハイランド地域の一部を除いてほぼ全域が汚染地域と言ってもよい。都市部は比較的安全であるが、ポート・モレスビーでも、時折邦人の発症をみることがある。

夕方から夜間にかけての外出には虫避け等の予防が必要である。予防薬はクロロキンが最も安全である。副作用が強い人は着任後しばらく様子を見て、継続するか否か、大使館の医務官と相談した方がよい。

マラリア全ての医療施設で治療可能であるが、マラリアが疑われる時は、速やかにマラリア検査ができる公立病院か、開業医を受診することが肝要である。

(3) 有害動物、病害虫

町中でも草むらには毒蛇（Papuan Black）がいる。また茶色の蛙は毒液を出すため、

子供には近づかないよう注意を促す必要がある。毒グモもいる。アリ、ゴキブリはどの家にもいる。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

首都の上水道は飲用可能であるが、時折混濁することもあるので煮沸が望ましい。地方都市では必ず煮沸が必要である。自己管理の天水タンクは比較的安全である。

(2) 濾過器の入手

当地でも入手可能であるが、割高である。

(3) その他の留意点

ローカル・マーケットなどで入手した野菜は腸チフス、A型肝炎、赤痢などの予防のため、よく洗うこと。

首都周辺の海岸は、治安・衛生面で問題があり遊泳は控えた方がよい。また、公共のプールでシラミがうつったり、眼病が流行することもある。

市街のいたるところでビードロナッツを吐き捨てる人が多く、結核が感染する恐れもあるので注意を要する。

小さな傷でも化膿しやすいのでよく消毒すること。

皮膚を不潔にすると、シラクモ、ハタケなど真菌症やその他の皮膚感染症が発症しやすいので注意すること。

予防接種はオーストラリアで接種することも可能である。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

義務教育は一切ない。保育園・学校とも2月からの4学期制で、各学期（10週間ずつ）の間に1～2週間の休みがある。週5日制で土日は休日となる。スクールバスがあるが、不便であり、治安上からも自動車で送り迎えをする必要がある。

保育園は、一部の施設では1才半から通園可能であるが、通常は3才児を受付けている。通園は、週1日から受付けており、回数に応じて料金設定されているところが多い。

就学前教育として、4才児は幼稚園（Pre-School）、5才児は幼年部（Prep）に通うことになる。

初等教育は6才から12才で、Grade1（1年）からGrade6（6年）にあたる。

中等教育（High School）はGrade7からGrade10で、卒業後は就職するか、専門学校（College）、あるいは、全国に5校ある国立高校（National High School）に進学する。

大学は、University of Papua New Guinea（UPNG）とPapua New Guinea University of Technology（UNITEC）の2校のみで、Grade12を終了し、入学試験に合格した学生のみ入学できる。オーストラリアに留学する学生も少なくない。

(2) 日本人学校

日本人学校はない。1983年6月にポート・モレスビー日本語補習校が設立され、97年10月現在、生徒数13名、現地採用教員4名で授業を行なっている。授業は毎週土曜日、午前8時45分から正午まで、国語、算数を中心として、音楽、社会、理科などの授業も実施している。

年度始めは4月であるが、基本的に授業期間はインターナショナル・スクールの学期に合わせている。

(3) 現地校、外国人学校

通常、邦人はインターナショナルスクールに通う。当国のインターナショナルスクールはInternational Education Agencyにより運営されており、オーストラリアのニューサウスウェルズ州の教育課程を基準としている。入学資格について特に制限はないが、上記の基準に達していないと卒業認定されない。Pre-SchoolからGrade12を併設している。

現在、首都において邦人が通学しているインターナショナルスクールは3校あり、外国人居住者が多い地方都市にもインターナショナル・スクールがある。

小学校の授業内容は英語、社会、理科、算数、美術、劇文学、音楽、工作、体育、外国語（フランス語、ドイツ語、インドネシア語）で、最初に英語を勉強する。英語を母国語としない子弟は英語の個別指導を受けることもできる。

日本の中・高等学校に相当するハイスクールの授業内容は、各学年により異なっており、Grade7～8は英語、数学、理科、地理、歴史、外国語、工作、家庭学、美術、音楽、体育。Grade9～10は、必修科目が英語、数学、理科、社会、体育で選択科目が3科目、Grade11～12は単位制になっており、必要単位数を取得することになっている。

(4) 幼稚園

英語の書き方や算数の授業がある。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

日本語補習校は、入学金 20 キナ、授業料は月額 20 キナとなっている。

(2) 現地校、外国人学校

インターナショナル・スクールの場合、幼稚園は半日コースと1日コースがあり、年額約 2,000～4,500 キナ、幼年部・小学校は年額約 5,000～5,500 キナ、ハイスクールは年額約 8,000～8,500 キナのほか、教科書代、教材費、制服代などが必要である。また、入学申し込みの際、250 キナ程度の前払いが必要である。

(3) 幼稚園

入園希望者が多いと待たされることがあり、早めに申請しておいた方がよい。午前中のみ、昼食後、1日コースなど帰宅時刻によって料金が異なる。また、支払い方法には、1日毎、一週間毎、一学期毎、一年分前払いなどの方法がある。年額約 2,000～3,000 キナ必要である。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

主な図書館は次のとおりである。

National Library of Papua New Guinea

住所：Independence Drive, Waigani

また、日本大使館は約 3,000 冊の一般図書を、日本語補習校は 800 冊の学童用図書を蔵しており、一般に公開している。また在留邦人からの寄贈も歓迎している。

(2) スポーツ施設

各学校に屋外・室内運動場がある。プールのある所もある。スポーツクラブは2カ所あり、家族会員制もある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語、水泳、ピアノの個人指導がある。

(2) 通信教育

該当情報なし。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

英語の児童書・参考図書は入手可能であるが、種類は少ない。日本の参考書などは入手不可能である。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

邦人のほとんどは、通いの家政婦／夫のみを雇用している。

6-2 運転手

(1) 雇用

給料が1ヶ月約300～500キナと高いため、雇用する人は少ない。邦人のほとんどは自分で運転している。英語は日常会話程度を期待できる。

(2) 日常管理

行き先ごとのキロ数、所要時間を把握し、業務日誌をつけてもらうとよい。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

集合住宅であれば1名で十分である。掃除と洗濯が主で、ベビーシッターも可能である。普通は週3～5日、単身赴任者は週2回、通いで掃除と洗濯を依頼する人が多い。料理は邦人向けの味付けは難しい。英語は日常会話程度を期待できる。

(2) 雇用

契約書作成などの手続は不要である。近隣、仕事関係者から情報収集して、邦人家庭の経験者を捜すとよい。

雇用時には、問題が発覚した場合は解雇する旨を明確にしておく必要がある。

賃金は、通いの場合1日10～15キナ程度、住み込みの場合は2週間100～150キナ程度である。クリスマスなどにはボーナスとして1～2週間分を支給する。休暇などで長期不在となるときは、その間少なくとも半額を保証する必要がある。

(3) 日常管理

経験者であっても仕事の内容、作業手順はすべて指導すること。初めて就業する人の場合は、過大な期待をしないことが肝要である。

トラブルを招きそうな物を放置したり、頭ごなしに怒鳴りつけたりしてはならない。許可なしに、親類、縁者を連れてくることは厳禁すること。

また、相手を信頼し友好的な関係を作り上げることも肝要である。

解雇通告は解雇直前に行なうことが必要である。なお、使用人を解雇したあとは、鍵を新しく替えること。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

集合住宅の場合、ガードマンは通常家賃に含まれている。一戸建て住宅の場合は各自でガードマンを雇用するか、警備会社と契約して派遣してもらう。ただし、生身の人間であるゆえ役に立たないこともあり、また犬については賊が対応策を心得ているので、ハイテク防犯設備が重要である。

よほど広い庭であれば庭師が必要であるが、通常は各自で手入れをしている。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

ハイランド地方と一部の近距離間を除き、道路網は整備されていない。ポート・モレスビーおよびラエ市内では、邦人の利用に適した公共交通機関はほとんどないため、自動車は必需品である。都市から都市への移動は、飛行機以外には考えられない。

(2) 自家用車を利用する場合

ポート・モレスビー市内の交通事情は、自動車台数の増加にともない悪化しており、交通事故は後を絶たない。運転マナーは公共バス（通称PMV）の運転手を含めてよいとは言い難い。

舗装状況は、雨期には極めて悪くなり、穴が所々にできるため注意が必要である。ラエ市内の道路は、現在豪州の援助を受け全面補修を実施している。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは各地に代理店があり、大抵の車がマニュアル車である。排気量1600CCクラスの1日当たりの料金は150キナから180キナとなっている。

空港での乗り捨てが可能である。運転手をレンタカー業者から1日当たり50キナで庸上することもできる。

現金で支払う場合は500キナのデポジットが必要である。クレジットカード(Visa, Master, American Express)も受け付ける。カード使用の場合はデポジットは不要である。借りる際には車輛の傷やスペアタイヤの空気圧を確認する必要がある。

レンタ会社	電話 (代表)	支店
AVIS	325-8299	Port Moresby, Goroka, Kavieng, Lae Alotau, Kimbe, Madang, Mt. Hagen, Lihir, Rabaul, Wewak, Tabubil, Manus
BUDGET	325-4111	Port Moresby, Goroka, Kavieng, Lae Alotau, Kimbe, Madang, Mt. Hagen, Rabaul, Tabubil, Popondetta
Thrifty	325-5550	Port Moresby, Lae, Rabaul, Madang, Mt. Hagen
HERTZ	325-4999	Port Moresby, Mt. Hagen, Goroka, madang, Wewak, Rabaul, Kimbe, Kavieng, Manus

(4) 道路地図

ポート・モレスビー市内の地図は JICA 事務所にて入手可能である。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事故が起きたら、まずその足で最寄りの警察署に直行することが肝要である。警察官の立会いの上事後処理に努める。現場に留まっていると相手側から暴力を受けることがあるので注意が必要である。

補償については保険以外は期待できない。任意保険加入（年間約500～600キナ）は必須である。

(2) 救急病院

General Hospital は担当医が不在のことがあり、いざという時には顧問医の方が頼りになる。

(3) 盗難

車両の盗難は後を絶たず、邦人の被害も増えている。駐車、乗降の際には、尾行されたり、不審な人物がいないかなど、周囲の気配を確認すること。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

左側通行である。法規は日本と同様である。「右側からくる車が優先」の原則があるので留意すること。

横断歩道は「人優先」である。かなり無謀な状況で横断する場合もあり、十分に注意して走行する必要がある。夜間は特に注意すること。

市内の最高速度は時速 60 キロである。

主な英語の標識は次のとおりである。

「Give Way」→「道を譲れ」2つの道が交差するところで相手車線が優先する。

「Keep Left」→「左を通れ」この標識の右側の道に入ってはいけない。

「One Way」→「一方通行」

「Turn Left Anytime With Care」→この交差点は左折はいつでも可能。

(2) 対処方法

該当情報なし。

7-4 車の修理

(1) 部品

当地で購入した日本車の部品は少々時間がかかるが入手可能である。日本から持ち込む車両は輸出用とは仕様が異なり入手が難しい場合もある。赴任前に確認の上持参することが必要である。

(2) 修理工場

1年中エアコン（冷房）を使用するため、こまめなエンジンオイルの交換などが必要である。またマフラーは比較的早く腐りやすい。行きつけの整備工場を決めて定期的に点検・修理してもらうのが望ましい。

工場の質はさまざまである。必要のない部品交換をされることもありうるため、整備工場の選択は十分に注意すること。オイルの交換は2,000 キロごとに最低1回は行い、うち2回に1回はフィルターも換えること。

年1回の車検整備の際は、指示しない限りはブレーキなどは見てもらえないので、不安な部分を記録したものを添えて修理、点検を依頼すること。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

市内、長距離ともに交換機の端末数が少なく、天災等の際は復旧に時間が掛かる。

(2) 国内電話

設置電話の普及率は低く市外局番はない。携帯電話が普及しており、ポート・モレスビー、レイ市内での通話が可能となっている。

(3) 国際電話

全国どこからでもダイヤル直通で国際電話がかけられる。

かけ方は (05) - (国番号) - (地域番号、最初のゼロは省く) - (加入者番号) である。例えば東京 03-3987-6543 にかける場合は 05-81-3-3987-6543 となる。

交換手を通す場合は (016) で交換手を呼び出す。相手先などを伝えたあと一旦切って交換手が折り返すのを待つ。

日本への通信の場合、料金は3分間までが12キナ60トヤである。その後1分毎に4キナ20トヤの加算となる。また、日本からコレクト・コールを受けた場合の料金は、3分間12キナ60トヤ、手数料8キナ40トヤである。交信状態は良好である。

日本からPNGへダイヤル直通するには、(001/0041) - (675) - (加入者番号) となる。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

ファックス専用の回線を引く必要がある。料金は50キナである。申し込みはTelekom PNG に行くこと。ファクシミリ機は、NEC、リコー、キヤノンなどの日本製品がほとんどである。1ページにつき2キナにて利用明細のプリントアウトサービスが受けられる。

郵便局でファクシミリの送信サービスを受け付けている。例えば日本へA4版1枚送信すると5キナである。カウンターで申請用紙に記入して料金を支払う。送信後の原稿は申請用紙に記載の私書箱に郵送される。

専門家のJICA事務所ファクシミリの受信利用は、やむを得ない場合にとどめること。

(2) テレックス

上記のTelekom PNGでリースをしている。沖電気製などで1ヶ月約100キナからである。

(3) 電報

郵便局で申し込む。約24時間で宛先に到着する。日本への電報は7文字まで3キナ15トヤ、それ以上は1字ごとに45トヤ加算される。

(4) インターネット

プロバイダは4社ある。日本語環境で通信可能なのはSouth Pacific社で、通信ボーレート9,600bpsである。入会料28キナ、15時間/月が30キナで、超過1時間につき1.5キナ加算となる。また、Telekom PNGの通話料金として月曜日～金曜日の7:30～17:30は1時間3キナ、休日、夜間は1時間1.8キナの料金が加金される。

8-3 郵便

(1) 一般事情

国内外郵便とも信頼でき、事故は少ない。書留もある。

宅配制度はないので、JICA 専門家は私書箱を開設（開設 6 キナ、年間使用料 6 キナ）するか、JICA 事務所の私書箱（P.O.Box 6639 BOROKO）を利用することになる。

当地～日本間の航空郵便は両方向とも到着までに約 1 週間を要する。

船郵便については原則として月 1 回、定期船によって輸送される。所要時間にはかなりばらつきがあり、3 週間～2 ヶ月くらいである。紛失事故などは少ない。

その他、かなり割高ではあるが DHL 便がある。日本との間は 2 日で到着する。

(2) 課税

日本などから送られたものが課税品である場合は Post Office 内の Custom で所定料金を支払う。特に食品などは没収されることもしばしばあり、要注意である。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

宅配制度は、1紙のみ (NATIONAL) 行っている。その他は、朝、路上の新聞販売員から、または書店などで買うことになる。

Post Courier (英語) …… 1部 60 トヤ、月曜～金曜、オーストラリア系資本の新聞で最も古い歴史を持つ。

The National (英語) …… 1部 60 トヤ、月曜～金曜、マレーシア系資本の新聞。

Saturday Independent (英語) …… 1部 60 トヤ、金曜午後早版、または土曜最終版、キリスト教系の新聞社。

Wantok (ピジン語) …… 1部 50 トヤ、木曜のみ。

この他 Words Publishing 社より、スポーツニュース (週刊)、ビジネスニュース (隔週) を販売している。上記の中では Post Courier が発行部数が多く、行政情報も豊富で知識人向けと言われている。

地方にはポート・モレスビーから空輸するため、半日～1日遅れ、山奥では1週間くらい遅れることもある。

(2) 本邦日刊紙

日本では下記へ申し込む。

海外新聞普及協会 (OCS)

住所：東京都港区芝浦 2- 9

電話：03-3453-8311

FAX：03-3453-8329

当地から申し込む場合はOCSのシドニー支店 (下記) に申し込む。宅配可能である。支払いはオーストラリアドル建て銀行小切手 (Demand Draft、当地銀行で作成可能) を郵送する。

OCS (Australia) Pty. Limited

住所：P. O. BOX 539, Mascot, N. S. W. 2020, Australia

電話：026935122

TELEX：177267

JICA 事務所ではオーストラリアOCSより朝日新聞および世界週報をとっているが、新聞は週3便、1日～3日遅れで到着する。

なお、OCS (日本、オーストラリアとも) では新聞だけでなく、雑誌購読も取り扱っている。

(3) 欧米紙

書店でオーストラリアの新聞が入手できる。書店やスーパーなどでは Newsweek, Times, Economistなどを販売しているが、少々割高である。直接出版社と年間購読契約などをする方が割安である。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

FM3局 (96.3MHz, 95MHz, 102MHz) およびAM1局 (585KHz) が主な放送局であり、放

送のほとんどが英語である。

(2) ラジオジャパン

ラジオジャパンの周波数はよく変わる。放送の冒頭に案内があるので注意すること。時の話題、相撲中継などもある。デジタル式の外国放送受信用ラジオでないと受信は難しい。当地での入手はむずかしいので日本から持参した方がよい。日本短波放送も受信可能である。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBC、VOA、中国語放送をはじめ多くの局が受信可能である。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ローカル局は1局だけであるが、パラボラ・アンテナをもつ会社のサービスを利用すると外国放送が約10局楽しめる。

ローカル局はEM TV (エムティーヴィーと発音) という。PAL方式で、朝6時から夜12時頃まで英語およびピジン語で放送されている。EM TVは室内アンテナだけで受信が可能である。ニュースとコマーシャルが多いが、さまざまな当地制作番組も放映するようになっている。

(2) テレビ受信

有料で外国放送の有線供給を受ける方法は居住地、アパートにより異なる。

パラボラ・アンテナをもっていたり、有線供給会社と一括契約しているアパートがある。このようなところは申請不要で入居と同時にTV放送が楽しめる。受信料は毎月家主に支払うところと、家賃に含まれているところとがある。

個人で契約する場合は各自有線供給会社に申請する。会社はHitron (TEL: 3252311) とChannel 8 (TEL: 3258688) の2社が代表的であり、放送局数はHitronの方が多。居住区域によって会社が違って来る。

1995年10月現在Hitronの入会金と受信機借用料は400キナ、デポジット51.50キナ、1ヶ月の利用料金は51.40キナである。

Hitronの場合は次の18チャンネルが視聴可能である。

オーストラリア4局 (PAL方式、英語)、アメリカ3局 (NTSC方式、英語)、マレーシア1局 (PAL方式、マレー語、中国語、英語)、フィリピン1局 (NTSC方式、フィリピン語、英語)、香港2局 (PAL方式、英語)、中国1局 (PAL方式、英語)、娯楽 (映画) 5局 (PALおよびNTSC方式)、独自の有線ビデオ放送1局 (英語)。

NHKの衛星放送はChannel8で (地域指定) 見ることができる。また、火曜日から金曜日にかけて毎朝6時から30分、オーストラリア系の多民族放送局 (SBS) にて、前日夜9時のNHKニュースを放送している。

日本のNTSC式テレビでは、PALやSECAMは映らない。3方式とも受信したい場合には、マルチ・システムのテレビを買う必要がある。電気店で21インチで約1,300キナで販売されている。日本から持ち込んだマルチ・システムのテレビでは、アメリカやフィリピンのNTSC放送がよく映らなかつたり音が出なかつたりすることがある。当地の電気店で部品を足して改造してもらおうと映るようになることもある。その場合、料金は約50キナである。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

総じて娯楽は少なく、特に単身者は夜の時間を過ごすのに苦労する。健康維持のためにスポーツを楽しむとよい。

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

有線放送、レンタルビデオの普及、及び治安の問題もあり、1990年に閉館している。

(2) 劇場

Waigani Art Theatreが官庁街にあり、演劇などの公演は新聞広告がでる。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

国内では出版部数、種類ともに少なく、オーストラリアからの輸入が主である。日本の出版物はOCSを利用して入手できる。(P.23 9-1 (2) 参照のこと。)

(2) 書店

Post News Agency, Boroko News Agencyの2社は、それぞれポート・モレスビー市内に数店舗を持っており、雑誌を中心に内外の出版物が入手できる。また、PNG大学構内の書店は教養書を中心に幅広く品揃えされている。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

PNG大学において、ピジン語、ヒリ・モツ語、フランス語、インドネシア語などの一般公開講座が受講できる。

(2) 家庭教師

当地在住の外国人婦人などから英語、フランス語などを習うことは可能であるが、紹介機関はない。個人レッスンで1時間20~30キナくらいである。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

エラビーチ・インターナショナル・スクールでは、毎月最終土曜の朝にクラフトマーケットを開催しており、PNGの工芸品を初め、手製の編み物、インテリア装飾品、書籍などを持ち寄り販売している。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

在住外国人婦人、およびPNG人婦人によるAll Nations Women's Groupが定期的に会合を持っており、メンバー間で国際的な文化交流を行っている。

(3) その他の文化活動、文化施設

National Musium

電話：3252422

開館時間：月~金曜日 8:30~15:30、日曜日 13:00 ~17:00、土曜日休み

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フィルムも販売されており、当地で現像・焼付が可能である。

(2) ビデオセット

レンタルビデオの店はいくつかある（VHSのみ）。洋画や香港映画などが豊富である。

日本のビデオテープを再生するだけならば NTSC 方式のビデオデッキで十分であるが、PAL 放送を録画したり、当地のレンタルビデオを再生したい場合はビデオデッキもマルチ・システムを買う必要がある。約 500 キナから購入できる。

ビデオカメラはまだ普及しておらず、非常に高価なので、トランスと共に持参した方がよい。

(3) 各種テープ

ビデオテープは VHS 方式が圧倒的である。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

不定期に開催されるので、新聞等で情報を入手するとよい。

日本の国際交流基金では、日本文化紹介のため、毎年数名を短期で派遣している。

(2) コーラス、演奏グループ

該当情報なし。

(3) ピアノなど

ヤマハの代理店が 1 軒ある。

(4) CD、レコードなど

音楽テープは 1 本 5 キナ程度である。PNG 音楽のほかアメリカ、英国のポップスがある。種類は限られており音質は余りよくない。CD も入手可能だが、種類は限られており、1 枚 20 キナ程度と高い。

(5) 民族楽器

地方によっては、伝統楽器が入手可能である。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

オーストラリア人が手芸教室を開講している。

(2) 絵画、美術工芸

民芸品、当国の動物の剥製の展示などが、Waigani Independence Drive である。Waigani Art Center では陶芸のクラスがある。

10-8 趣味

(1) 園芸

毎年、6 月中旬に行なわれるポート・モレスビー・ショーなどで日本の盆栽が展示されることがある。市内には造園会社及び市経営の緑化対策室にて種プラントを販売している他、ローカルマーケット及び月例開催のクラフトマーケットなどでも種苗類を販売している。市郊外の避暑地ソゲリ付近（車で約 1 時間半）では、道路沿いで野生蘭などを販売している。また、PNG 大学内の植物園でも購入可能である。

(2) 釣り

Boroko Fishing Club (TEL: 3252900) があり、釣り大会などを開催している。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

PNG人の中で人気のあるスポーツはラグビー、サッカーであり、ソフトボール、バスケットボール、クリケット、ネットボール（バスケットボールの姉妹スポーツで旧英連邦諸国で盛んな女性のスポーツ）なども比較的人気がある。

(2) レジャー、娯楽場、遊園地

該当情報なし。

(3) ディスコ、カラオケ

主要ホテルでは、週末にディスコが開催されている。一部の中華レストランにカラオケ装置が設置されているが、邦人は利用していない。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

主要都市に1ヵ所はゴルフ場がある。18ホールあるのは、ポート・モレスビー、レイ、マウント・ハーゲン、ラエのゴルフ場である。ほかは9ホールである。

(2) テニス

会員制のクラブには、Islander Sports Club, Aviat Club と Boroko Tennis Club がある。

(3) 水泳

プールは、Aviat Club (会員制)、Islander Hotel (無料)、Taurama (料金1キナ、50メートルプール) がある。

ポート・モレスビーには主に子供を対象にした Port Moresby Swimming Club と Boroko Swimming Club の2つがある。5歳くらいから入会でき、全国大会などにも多数代表を送っている。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

会員制で乗馬、ヨットのクラブがある。スカッシュのコートが Islander Hotel のスポーツクラブにある。ゴルフクラブ、テニスラケットなどのスポーツ用品はひとつおりの調達可能であるが、持参するか、または第三国から調達した方がよい。

(5) スポーツクラブなど

会員制スポーツクラブとして、Islander Sports Club (Islander Hotel 内)、及び Aviat Club (Konedobu 地区) があり、テニス、スカッシュ、水泳などが可能である。年会費は200キナ前後である。

(6) その他 (マリンスポーツ)

ポート・モレスビー近海の珊瑚礁ではダイビングが楽しめる。週末にはダイブ・ショップが日帰りツアーを催している。また、ポート・モレスビー・ヨットクラブの会員になると、セイリング講習会などに参加できる。

10-11 子供の遊び

近所の子供や学校の友達と互いの家を行き来したり、週末は集合住宅施設、またはホテルのプールで遊んだりしている。

玩具は一通り販売されてるが割高で選択の幅は狭い。本邦から持参するか休暇の際の旅行先で調達するとよい。

各インターナショナル・スクールでは放課後活動 (After School Activities) があり、スケートボード、ネットボール、サッカー、工芸、演劇などを習うことが出来る。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

中央銀行 (Bank of Papua New Guinea) の他、民間ではオーストラリア系の銀行 3 社 (Westpac, ANZ, Bank of South Pacific)、PNG 系 1 社 (Papua New Guinea Banking Corporation)、アメリカ系 1 社 (Bank of Hawaii)、マレーシア系 1 社 (May Bank) があるほか、ローン及び投資関係の金融機関も数社ある。

銀行口座は、日本大使館、JICA 関係者とも東京三菱信託銀行ニューヨーク支店に開設しており、滞在費は同支店へ送金される。さらに当地銀行に当地通貨口座を開設し、東京三菱信託銀行ニューヨーク支店より送付されるドル小切手により必要額を振出し、当地銀行にて当地通貨に換算の上当地口座に振り込むのが一般的である。

口座の閉鎖については閉鎖のための用紙にサインするだけでよい。その前に振出小切手が口座より引き落されているかチェックすること。残額については、単身の場合は 1 万キナ、夫婦では 2 万キナまでが、旅行小切手にしたり送金ができる。それ以上の場合はパプア・ニューギニア銀行の認可を必要とする。

11-2 コンピュータ

IBM、NEC、Apple、COMPAQ などの各販売代理店はあるが、ソフト、ハード共に品揃えは少なく割高である。英語版のソフトは第 3 国での調達が無難である。日本語ソフトは持参しなければならない。

11-3 美容院・理髪店

フィリピン人の経営する店など、理髪店、美容院はいくつかあるが、値段は高い。カットのみは約 15 キナ、カット&シャンプー&ブローは約 20 キナ、カット&パーマは約 60 キナである。ポート・モレスビー内には 8 軒ほどある。

Capri Hairdresser

所在地：Taurama 交差点近く

電話：3257807

特記事項：男女とも予約が望ましい。

Emies Beauty Salon

所在地：JICA 事務所のあるガーデンシテイビル 1 階

電話：3253271

Maxies Beauty Salon

所在地：Islander Travelodge 内、及びタウン ANZ ビル 1 階

電話：3256141、3212040

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

首都のみならず、地方も治安は悪化しており、ラスカル（粗暴犯）の被害に遭う邦人も少なくない。したがって旅行には細心の注意が必要である。地方でも、英語ができれば一応はこと足りる。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

ポート・モレスビーでは次の2つが比較的安全に楽しめる。

<Loloata Island Resort 日帰りツアー（31 キナ、バイキングの昼食付き）>

市内から車で約30分の船着場（Tahira marina）から、船で約20分のLoloata 島への日帰り旅行。水泳、シュノーケリング、ウィンドサーフィンなども楽しめる。宿泊も可能である。

<Varirata National Park へのドライブ、ピクニック（入園料2キナ）>

市内から車で約1時間。展望台、バーベキュー広場および散策コースなどあり、家族連れに最適である。ただし、安全のため何台かの車で行くことをすすめる。ポート・モレスビー付近では次の祭りがある。

<Port Moresby Show >

Queen's Birthday*（祝日）を含む6月中旬の3連休に、市内より10キロほど郊外のMoitaka Show Groundにて昼開催される。入場料は2キナである。各地方のTraditional Dance、パフォーマンス、各種出店などがある。

*エリザベス女王の実際の誕生日は6月12日であるが、当国ではQueen's Birthdayの祝日は週末とあわせて3連休になるよう毎年移動している。

<Sogeri Singsing >

毎年7月。ポート・モレスビーより40キロ離れた国立ソゲリ高校（国立高校は全国で4校）の文化祭。民族衣装を着た生徒が各出身地の踊り（Singsing）を披露する。外国人の人気も高い。

その他、Goroka Show, Mt. Hagen Show, Morobe Show, Madang Show, Enga Show がある。独立記念日の週末は、パプア系住民の昔の物品交換貿易を偲んで、Hiri Moale Festival を開催し、ミスヒリモアレ選出や様々な舞踊グループが参加している。

12-3 旅行

(1) 自動車

山の多い当国では都市間を自動車で行き来するのは一般的でない。ハイランド地方では4輪駆動車が必須である。現在、首都ポート・モレスビーと第2の都市レイとを結ぶ横断道路が計画されており、既にその一部が日本の援助（円借款、開発調査）で建設中である。

(2) バス

乗合バスは邦人にはすすめられない。

(3) 鉄道

鉄道はない。

(4) 航空機

地方への唯一の交通手段である。Air Niugini 及び民間会社数社が国中に航空網を張り巡らしている。Air Niugini はジェット機で比較的大きな都市間を運航しており、民間航空会社はプロペラ機で小さな町・村にも飛んでいる。機内はすべて禁煙である。

12-4 旅行代理店

Westpac Travel (TEL: 3254500) など多数ある。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

直接ホテルに電話予約をするのが一般的だが、旅行代理店に頼むことも可能である。地方のホテルは、依頼により空港出迎えをしてくれるところが多い。ほとんどのホテルでアメックス、マスターが使用可能である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

軍のクーデターなどの可能性は低い。

(1) 緊急時の連絡

該当情報なし。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

問題がないとは言い難く、政府にとって治安状況の改善は最優先課題となっている。年々、犯罪件数は増加しており、ポート・モレスビーだけで一晩約 40 件に達する。また、その内容も凶悪化（密造ライフルなどを多用）している。特にラスカル（Rascal）と呼ばれる強盗団は、5～10 数名の集団で家宅侵入、強盗、窃盗、強姦などを行なう。

日本大使館、JICA 事務所の再三再四の注意にも関わらず、邦人の被害は後を絶たない。JICA 関係者も例外ではなく盗難（自動車盗難など）や空き巣の被害が多い。

(2) 防犯対策

- ・当地の中国人やフィリピン人に倣って目だたぬ服装をし、質素な生活を心がける。
- ・夜の外出は控える。
- ・都市部においては集合住宅が望ましい。門戸の戸締まりはしっかりと確認し、高層マンションであっても就寝時には窓、寝室を施錠する必要がある。
- ・夜間の帰宅の際は、尾行する車はないか、ゲートに警備員以外の気配はないかを良く確認すること。
- ・日中でも、車の乗降の際は周囲に不審な人物がいないか注意する。

当国の治安・防犯については「安全対策の手引き」（1996 年 12 月、PNG JICA 事務所）、「治安・防犯の手引き」（1987 年 7 月、在 PNG 日本大使館）に詳述しており、JICA 事務所でも配布している。

(3) 被害時の心得

被害に遭った時は、抵抗をせず犯人の要求に従うこと。抵抗したために殺害されたり暴行を受けた例がある。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

1994 年 9 月、東ニューブリテン州ラバウルの 2 つの火山が噴火し、ラバウル市は壊滅状況となった。住民は事前の警報にて避難し、死傷者はほとんどなかった。

セピック川は雨量が多いと氾濫し、河川周辺の住居が床上浸水したり、農地、家畜に被害が出る。河川流域では、常に水害の危険にさらされている。

(2) 防災対策

ポート・モレスビー、ラエでは天災の可能性は低いが、火災などに備えて食料の備蓄はしておくこと。

避難に関しては、隣人からの情報とラジオのニュースに注意するとよい。

(3) 被災時の心得

被災した場合は、速やかに警察に連絡すると共に、大使館領事または JICA 所長、職員などに緊急連絡を入れる。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

日本の地方空港ほどの規模である。タラップを降り、50メートルほど歩いて空港建物に入る。入国審査の列からは、預かり荷物引き取り所 (Baggage Claim) や税関が見える。JICA 職員は税関の外で出迎えることになる。

(2) 入国手続書類

入国カード、税関申告書が必要である。

(3) 入国審査

該当情報なし。

(4) 税関検査

ビデオテープを持っているかどうかと聞かれることが多い。ポルノは輸入禁止である。植物および動物性食品も没収される。また、電化製品、ビデオカメラ、カメラ等は購入日と金額を聞かれ、課税されることがある。

邦人を中心にアジア系の入国者に対する食料品の持ち込み検査は厳しい。生ものや日本食の持ち込みに対しては特に厳しいので注意が必要である。

(5) 空港内での留意点

税関検査後、パスポート等の貴重品は速やかに安全な場所に収納することが肝要である。税関検査の場所から数メートル先のドアを出れば、そこは空港ビルの外であり、大勢の人に囲まれる。両手は荷物で塞がれ、手にはパスポートを持っているという状態にならないよう、十分注意すること。

空港ビル内は禁煙、ビル周辺は灰皿 (ドラム缶) のある場所のみ喫煙が可能である。吸いがらの投げ捨ては 15 キナの罰金を請求される。

(6) 空港からの主な交通手段

タクシーを使う。メーターの有無にかかわらず、乗車前に料金の交渉をする必要がある。料金の目安は空港からアイランダーホテルまで 10~15 キナ、トラベルロッジまで 20 キナ、JICA 事務所のあるボロコのガーデンシティービルまでは 10 キナである。英語は通じる。JICA 関係者は、通常事務所職員が送迎する。

(7) その他の留意点

該当情報なし。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

チェック・インの後、向かって右奥のカウンターで空港税 15 キナ (公用旅券の場合は空港税は免除) を支払い、出国手続き、手荷物検査、待合室と続く。

待合室の免税店は値段が高く、酒・タバコは次の空港で買った方がよい。また民芸品などは町で買う方がよい。

(2) 出国手続上の留意点

任国外旅行、一時帰国などの際は、再入国ができるよう事前にビザを Multiple に書き換えておく必要がある。帰路変更をする人は渡航先がパスポートに記載されている国であるか確認し、必要に応じ渡航先の追加を日本大使館に申請すること。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

該当情報なし。

(2) 車の処分

ディーラー、新聞広告などを利用して売却することになる。

日本からの新車、中古車の輸入、または当地での新車購入、これらいずれの場合も、免税による車は2年間の売買が禁止されている。したがって、任期2年未満の人は、輸入税込みの車を購入せざるを得ない。

(3) 家財道具の処分

新聞広告による。または知人、後任者などに譲渡する。

(4) 住宅の明け渡し

それぞれの賃貸契約により異なるが、1ヶ月前に申し出るのが一般的である。

(5) 外貨持出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

業者の取り扱いや、船便の盗難の可能性を考慮して、引越し荷物には十分な保険をかけておくことが望ましい。

船便の到着は、日本での船積み後1～2ヶ月程度かかるのが通例である。

携行荷物の超過料金（エクセス）は非常に高いので、アナカンを利用することをすすめる。日本から前送で1キロあたり890円プラス諸手数料がかかる。

(1) 輸送業者

主な輸送業者は次のとおりである。

Ansett Wridgeways Removals……電話：325-5366

Hi-Lift……電話：325-1355

(2) 輸入手続

引き取りの際、書類による免税申告が必要である。免税申告書は船荷証券を元にJICA事務所で作成する。遅くとも、港に荷物が着く2週間くらい前までに船荷証券がJICA事務所に届いている必要がある。引き取りが遅れるとかなり高額の保管料を徴収されるので注意すること。

(3) 輸入荷物の受取り港

該当情報なし。

(4) 家財道具の購入

該当情報なし。

15-2 自動車

(1) 一般状況

着任後早急に入手する必要がある。日本車が市場の95%をしめているが、新車、中古車を含め相当に割高である。免税で新車を購入する場合でも、日本での税込み価格よりは高くなるものと覚悟すること。

(2) 輸入手続

該当情報なし。

(3) 任国での購入

完成車を輸入しており、ノックダウン車はない。トヨタ、ニッサン、ホンダ、マツダ、三菱、ダイハツ、いすずなどのディーラーがあり種類も多い。若干割高ではあるが、販売台数の多い車を選べば部品交換や修理も容易である。なお、免税特権をもつ人の車を免税で購入することも可能である。

(4) 自動車登録

1～2日で登録手続が可能である。毎年登録税を支払う。税額は車種により異なるが、2,000ccクラスで108キナである。

(5) 免許証取得

免許証の書換えは、日本発行の国際免許からできる。Hoholaの運輸省および警察庁所管のTraffic Registry Officeに出向き、手数料20キナで即日交付、写真はその場で撮影する。

当国での免許新規取得は以下のとおりである。一般免許の受験には、仮免許

(Learner's Permit) の取得が必要であり、これは 20 キナを出すと上記登録所で無条件で交付される。仮免許者は L マークを車の前後につけ、免許所持者同乗のもと一般道路で練習できる。試験は口頭と実技がある。口頭試験では英語力は障害とならず、主に仮免許の時に渡される小冊子から出題される。

上記試験に合格すると初心者免許 (Provisional Licence) が交付される (6 キナ) が、これは本免許と同様、単独で運転できる。初心者免許で 1 年間無事故で済むと 3 年間有効の本免許 (Driver's Licence) が交付される。なお初心者免許は国際免許や日本の本免許には書換え不可能であるので注意すること。また、帰国時に日本の免許証が既に失効している場合は、Boroko にある Traffic Registry Office で国際免許を発行してもらい、帰国してから日本の免許に書き換えることになる。国際免許の発行には手数料 20 キナと、パスポートサイズの白黒写真が必要である。

また、都道府県によっては海外からの帰国者に対しては簡易な手続で再交付する場合もある。赴任前に免許の種別・失効年月日などを記して自分の属する県警に問い合わせしておくよ。

(6) 保険、税金

保険には強制保険 (Third Party Insurance) と任意保険があり、ともに 1 年単位である。強制保険の申請は車両登録と同時期に行なう。共に 1 年ごとで、計 300 キナ必要である。強制保険は対人、対物のみであり、すなわち相手の被った損害を補償するためのものである。自分の損害はカバーしていない。

任意保険への加入は必須である。Mitsui Marine & Fire Insurance の任意保険は邦人専用の保険があるので掛金が安く、現在邦人のほぼ全員が加入している。新車 1 台につき年約 500 キナである。

16. 社交

16-1 風俗習慣

都市部の人々は日本と同様、知り合い以外は余り挨拶をしないが、一度友好関係を築けば、家族、親戚、部族の一員として暖かく面倒をみてくれる。

ピロードの実のプアイを、ライムとジンジャー系の香辛料と共に噛み合わせるのが、リラックス時の嗜好となっている。しかし、真っ赤になった唾液をあたりに吐くことから、景観を損なうことなどが問題になっている。

16-2 パーティーでの留意点

PNG人 (National(s) という) を招くパーティーや会食は、夜でなく、昼が一般的である。ピュツフェなどでもてなすのが適当である。

16-3 来客時の留意点

PNG人を家族単位で呼ぶ場合は、あらかじめ、その人をよく把握しておくのが賢明である。

16-4 訪問時の留意点

該当情報なし。

16-5 禁止されている言動

高級ホテルや職場での短パン、サンダルばき、公共の場での喫煙、その他、横柄な態度の外国人は決して見習うべきではない。

喫煙習慣は広くいきわたっているが、教養、収入の高いクラスのステイタスシンボルのひとつはタバコを吸わないことであり、灰皿があるからといって断わりもなしに吸うと礼儀知らずと見なされる恐れがある。したがって、人前での喫煙はできる限り避けた方が無難である。飛行機、官公庁、進歩的なオフィスなどに禁煙ゾーンは広がりがつつある。

17. 任国官公庁

官公庁はすべて月曜日から金曜日の勤務である。

Department of Prime Minister

住所：5th Floor, Morauta House, Waigani

郵送先：P.O. Box 639, Waigani, N.C.D

電話：327 6616/327 6713/327 6633/327 6645

FAX：3276696

Department of Commerce and Industry

住所：4th Floor, Central Government Offices, Waigani

郵送先：P.O. Box 375, Waigani, N.C.D

電話：301 1805/301 1806/30 11807

FAX：325 2403

Department of Provincial and Local Government Affairs

住所：Central Government Offices, Waigani

郵送先：P.O. Box 1287, Boroko, N.C.D

電話：301 1002/301 1003

FAX：25 0553/323 1438

Department of Defence

住所：Murray Barracks, Taurama

郵送先：Free Mail Bag, Boroko, N.C.D

電話：324 2358

FAX：325 2689

Department of Education

住所：P.S.A. Haus, Waigani

郵送先：P.O. Box 446 Waigani, N.C.D

電話：301 3447/301 3555

FAX：301 3548/25 4648

Department of Health

住所：5th Floor, Aopi Centre, Waigani Drive

郵送先：P.O. Box 807, Boroko, N.C.D

電話：301 3601/301 3602

FAX：325 1230

Department of Foreign Affairs

住所：Central Government Offices, Waigani

郵送先：P.O. Box 422, Waigani, N.C.D

電話：300 1119/300 1120

FAX：325 4467/325 2803

Department of Finance

住所：4th Floor, Vulupindi House, Waigani
郵送先：P.O. Box 710, Waigani, N.C.D
電話：328 8452
FAX：328 8431

Department of Planning and Implementation

住所：3rd Floor, Vulupindi House, Waigani
郵送先：P.O Box 710, Waigani, N.C.D
電話：328 8501/328 8502
FAX:325 2757

Department of Attorney General

住所：Central Government Offices, Waigani
郵送先：P.O. Box 591, Waigani, N.C.D
電話：327 6520/301 2820
FAX：325 0520/325 6825

Department of Industrial Relations

住所：Credit House, Port Moresby
郵送先：P.O. Box 5644, Boroko, N.C.D
電話：321 7408
FAX：321 2476

Department of Lands

住所：4th Floor, Aopi Centre, Waigani Drive
郵送先：P.O. Box 5665, Boroko, N.C.D
電話：301 3115/301 3116
FAX：301 3139

Department of Mining

住所：Konedobu, N.C.D
郵送先：Private Mail Bag, Port Moresby, N.C.D
電話：321 1961
FAX：321 7958

Department of Police (Royal Papua New Guinea Constabulary)

住所：Police Headquarters, Spring Garden Road, Konedobu, N.C.D
郵送先：P.O. Box 85, Konedobu
電話：322 6110
FAX：322 6113

Department of Agriculture & Livestock

住所：Spring Garden Road, Konedobu
郵送先：P.O. Box 417, Konedobu, N.C.D
電話：321 3302
FAX：320 0485

Public Service Commission

住所：Bird of Paradise Arcade, Tabari Place, Boroko

郵送先：P.O. Box 2335, Boroko, N.C.D

電話：325 7722/325 7858/323 2135

FAX：323 0252

Office of Transport

住所：Town, Port Moresby

郵送先：P.O. Box 1489, Port Moresby, N.C.D

電話：322 2500/322 2580

FAX：320 0236

Office of Works

住所：Headquarters, Waigani Drive

郵送先：P.O. Box 1108, Boroko, N.C.D

電話：324 1139

FAX：324 1277

Office of Civil Aviation

住所：Jackson's Airport

郵送先：P.O. Box 684, Boroko, N.C.D

電話：3244456

FAX：3251919

Department of Home Affairs & Youth

住所：Ori Lavi Haus, Boroko

郵送先：P.O. Box 7354, Boroko

電話：325 7077/325 5924

FAX：325 1919

Department of Environment & Conservation

住所：Central Government Offices, Waigani

郵送先：P.O. Box 6601, Boroko, N.C.D

電話：301 1607

FAX：301 1691

PNG Forests Authority

住所：Frangipani Street, Hohola,

郵送先：P.O. Box 5055, Boroko, N.C.D

電話：327 7841/327 7800

FAX：325 4433

Corrective Institutional Services

住所：4th Floor, Credit Corporation Building, Port Moresby

郵送先：P.O. Box 5097, Boroko, N.C.D

電話：321 4000/321 4917

FAX：321 7686

National Fisheries Authority

住所：8th Floor, Invesmen House, Port Moresby
郵送先：P.O. Box 2016, Port Moresby, N.C.D
電話：320 3133
FAX：320 2061

Department of Personnel Management

住所：Central Government Offices, Waigani
郵送先：P.O. Box 519, Waigani, N.C.D
電話：301 1410/301 1412
FAX：325 6825/325 0520

Office of Information and Communication

住所：2nd Floor, Morauta House, Waigani
郵送先：P.O. Box 1424, Port Moresby, N.C.D
電話：327 6367/327 6472
FAX：323 0976

Office of Administrative Services

住所：2nd Floor, TISA House, Waigani
郵送先：P.O. Box 6101, Boroko, N.C.D
電話：301 2400
FAX：323 0352

Department of Home Affairs, Youth and Women

住所：2nd Floor, Ori Lavi Haus, Boroko
郵送先：P.O. Box 7354, Boroko, N.C.D
電話：325 4967/325 4566
FAX：325 1230

Department of Bougainville Affairs

住所：3rd Floor, Morauta House, Waigani
郵送先：P.O. Box 343, Waigani, N.C.D
電話：325 9418/327 6612
FAX：325 8038

Department of Petroleum and Energy

住所：National Parliament House, Waigani
郵送先：P.O. Parliament House, Waigani, N.C.D
電話：327 7344/327 7342
FAX：327 7343/327 7480

Department of Trade and Tourism

住所：National Parliament House, Waigani
郵送先：P.O. Wardstrip, Waigani, N.C.D
電話：327 7587/327 7588
FAX：327 7586

National Cultural Commission

住所：Ground Floor, Nambawan Finance Haus, Waigani Drive

郵送先：P.O. Box 7144, Boroko, N.C.D

電話：323 5111

FAX：325 9119

Government WHIP

住所：Parliament House, Waigani

郵送先：P.O. Parliament House, Waigani, N.C.D

18. 在外日本関係機関など

在パプア・ニューギニア大使館

住所：1st & 2nd Floor, Cuthbertson House, Cuthbertson St. Port
Moresby, NCD, Papua New Guinea

T E L : (675) 321-1800, 321-1483, 321-1305, 321-7878

FAX : (675) 321-4868

JICA パプア・ニューギニア事務所

住所：Shop 7A, Second Floor Garden City, Lot 4, Section 18, Angau
Drive, Boroko, National Capital District, Papua New Guinea

郵送先：P.O.Box 6639, Boroko, N.C.D. Papua New Guinea

T E L : 675-25-1699

FAX : 675-25-0752

19. 地方都市

19-1 ラエ市

人口約12万人、PNG第2の都市である。ハイランド地方と幹線道路で結ばれており、商業的にも重要な位置を占める都市である。

JICAプロジェクト技術協力である森林研究計画が実施されている研究所があり、プロジェクト調整員を含め、1997年9月現在4名の長期専門家が派遣されている。そのほかパプアニューギニア工科大学の鉱山学部にも2名の長期専門家が派遣されている。

ポート・モレスビーと比較すれば犯罪件数は少ないが、窃盗、強盗などはやはり頻発しているため、油断は禁物である。

食料に関しては、日本食にこだわらなければ様々な物が豊富に揃っている。生活上、娯楽が少ないことと治安の多少の心配を除けば、さほど不自由はない。

19-2 アユラ町

人口約千人の東ハイランド州3番目の町で、養殖の長期専門家2名が滞在している。物質的には、食料品を含めて乏しいところもあるが、豊かな自然や、治安の比較的良いことにおいては、都市部では望めない物がある。邦人子女に適した教育施設はないので、家族での赴任はあまりすすめられない。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する JICA 派遣専門家および JICA 役職員等が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家および JICA 役職員等は、技術協力協定や要請文書などの国際約束により、税金の免除等一定の義務が免除されるなどの特別の条件が付与されています。

本情報は、これらの条件に基づいたものであることを、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、ドバイ)
16. イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. バブア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサウ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ

「任国情報（パプア・ニューギニア）1997年版」

平成10年3月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357
